

東村山市小彼岸桜の会

会長 水谷達夫



紙面をお借りして、私たち「東村山市小彼岸桜の会」について紹介させていただきます。

小彼岸桜は、「天下第一の桜」と言われている長野県高遠城址の桜として有名で、小振りでピンクの強い可憐な花を咲かせます。高遠小彼岸桜（コヒガンザクラ）と呼ばれています。

当会の初代会長で現名誉会長の橋本一郎氏が、平成九年に高遠城址の桜に魅せられ、高遠市で売られていた苗木を持ち帰り、挿し木で増やす技術を開発したことが当会発足の原点となりました。以来、近隣の町を含めて二千本、東村山市内には千本近くを植樹しています。東村山市を高遠のような小彼岸桜の名所にするのを夢に、会員一同さまざまな活動をしているところです。



村山中央公園、「狭山・境緑道八坂駅付近」、「市内小中学校」、「久米川病院特養ホーム」などです。また、中央公園で開催される「春の緑の祭典」では、苗木を無料配布していますから、多くの市民の皆様も庭でも花を楽しまれているのではないのでしょうか。

東村山駅東口と新秋津駅を結ぶ「さくら通り」は、令和元年に全線開通しました。四十年以上前から植栽されていた染井吉野に加えて、平成十五年から小彼岸桜が、平成二十六年から天の川という桜が交互に植栽され、「さくら通り」の桜並木が連結されました。毎年春には多くの市民と近隣の町の人々の評判を集めて、今では一つの名所となつていきます。

市内の小中学校には平成十八年から植栽を始め、平成二十三年からは子供たちと一緒に植樹を始まりました。現在では十一校に六十本以上が生育しています。植樹した当時の子供たちが卒業してからも思い出を繋ぎ、在校生との同窓繋がりを感ぜてもらえればと思つています。

「久米川病院特養ホーム」は令和元年に建設され、園内に十五本の小彼岸桜の四年生苗木を植栽しました。翌年には十五本全部が開花し、利用されている方々の目を楽しませました。庭園には他種の樹木も数々植栽されています。それぞれ特性をもつて生長するので、これらと調和させながら樹形を整えていくには、もう数年の剪定管理は続けなければならぬと思つています。



私たちは、植栽した小彼岸桜を植栽して終わりではなく、その後の樹形管理が必要と考え、主な公園、並木、学校の巡回・剪定を毎年欠かさず行つていきます。剪定に当たってはフラッシュカット法を採用しています。これは切る枝の根元から幹の面に沿って滑らかに切除し、切り口に融合剤を塗布して腐朽菌の侵入を防ぐ手法です。この方法によつて樹木の若々しさと、幹の綺麗な景観が保たれるのです。

温暖化の影響なのか、天候不順や超大型台風の上陸などで、並木の倒伏、折害により、伐採・伐根されることがあり、樹木の再生、並木の回復は欠かせません。伐採樹については、新しい苗木の植栽や、切株から発生した新芽・ヒコバエを育てる萌芽更新法で樹木の再生を図るようにしています。このように植栽した小彼岸桜のほとんど全てについて、毎年数回の巡回管理を行つていきます。

東村山市が小彼岸桜の名所となるよう、市民の皆様も小彼岸桜をかわいがり、愛でる気持ちを抱いていただくようお願いいたします。

